

研究テーマ	「想い（発想・想像・構想）を広げ、深めること」 小学校6年生「ワクワクカーニバル」の実践を通して
-------	---

桜川市立岩瀬小学校 教諭 小河原 範子

1 研究テーマについて

(1) 学習指導要領から

図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。ここで言う「基礎的な能力」の1つに、「発想や構想の能力」があり、具体的には「形や色、イメージなどをもとに想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりする能力」である。それは、児童が自己との対話を重ねながら、他者や社会、自然や環境などの多様な関係の中で活動することによって培われる。児童の資質や能力は、活動そのものに表れることが多い。そのため授業においては、児童の活動そのものを見取り、授業実践にどうつなげていくかを見極めていくことが大切であると考えられる。

また、今回の研究テーマに係わる5・6年の目標の1つに「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする」がある。ここで述べられている「主題の表し方を構想する」とは、おおよその計画を立てたり、つくりながら順番や組み立て方を考えたりすることととらえ、実践に反映させていくことにした。

(2) 研究の目的

「ワクワクカーニバル」の授業の実践を通して、児童の発想する力、想像する力、構想する力を広げる授業の在り方を探る。

(3) 研究の仮説

- 1) 自分の思いを躊躇なく書き込んだり、次々にうかぶ思いついたアイデアの遍歴が見通せるようなワークシートを工夫すれば、筋道を立てて自分の思いを表現し、練り上げることができるであろう。
- 2) 自分が気に入るまで、何度でもやり直すことができるような題材を開発していけば、苦手意識をもたずまた、失敗を恐れず自分の考えや思いを表現できるであろう。
- 3) 教師が児童一人一人のイメージをふくらませるために効果的な資料を工夫し、材料とふれ合う時間や場をしっかりと確保すれば、自分の思いが更に深まるであろう。

2 実践例

(1) 題材名 ワクワク カーニバル

(2) 目標

- 風景と材料とを組み合わせ、風景の変化や組み合わせのおもしろさを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 景色を額でどのように切り取ると、何がかわるか想像することができる。
(発想や構想の能力)
- つくったものと景色との組み合わせを試しながら写真に撮って記録を残し、設置状況や写真などを見て、新しい表現へ発展させる工夫ができる。
(創造的な技能)
- 作品の写真を提示し自分の作品の意図や友人の活動のよさについて交流し合うことができる。
(鑑賞の能力)

(3) 題材について

1) 題材観

この題材は、自分らしくつくった額縁を通して見える校外の身近な風景を、ユーモアや意外性を感じる風景に変える活動を通して、「材料や場所の形や色、動き、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、それらをもとに発想し、想像力を働かせてつくること」を重点的な目標とした学習である。

また、この題材をパブリックアートの一つとして捉え、自分の考えを作品の色や形に託し、周りの社会と広くコミュニケーションし、社会と豊かにかかわる態度を育てることもねらっている。

2) 児童観

高学年の児童は、自己を中心とした表現から次第にものや人とのかかわりによる表現を好むよ

うになってくる。知的な判断のもとに対象を見るようになり素朴さが失われがちになる。ユーモアや意外性のある発想に興味を持ち、また自分の作品や思いを客観的に見ることができるようになってくる。本学級の児童はこれまでに身近な自然物に対して思いついたことを楽しく表したり素材の特徴やよさを生かした作品づくりを何度も経験している。本題材の学習を進めるにあたり内容に関連する実態を調査した結果は次の通りである。

(児童数 31名)

○ 室外にある素材で何かをつくった事がありますか。また、それはどんなことをしましたか。		
・ある	4名	・ない
・総合的な学習	2名	・竹とんぼ作り
		1名
		・写生
		1名
○ 室外の身近なところで気に入っている風景はどこですか。		
・桜の木	16名	・正門
		5名
・屋上からの景色		5名
・プール裏	3名	・北校舎
		1名
		・プランターの花
		1名
○ 室外で図画工作の授業をすることをどう思いますか。		
・楽しみ	15名	・よい
		12名
・どっちでもいい		1名
・緊張する	1名	・行きたくない
		1名
○ 自分の作品を家に飾った事がありますか。どんなふうに飾りましたか		
・ある	22名	・ない
		9名
・机の上	10名	・壁
		7名
・棚の上		2名
・ケースの中	1名	・玄関
		1名
		・テレビの上
		1名

これらの結果から、本学級では、室外にある素材で何かをつくったことがある児童は、1割程度で非常に少ない。しかし、身近なところに気に入った風景がある児童は多く、室外で図工の授業をすることに対しては意欲的な児童が多い。授業後に家で作品を飾ったり、使ったりする事に関しては、半数の児童が意識が低いことも分かった。また、前学期には、針金を主材料とし、その特徴を生かしながら「照明」という用途をもったものをつくる学習をした。ほとんどの児童が自分の活動に自信を持って活動したが、自分の考えをまとめ、構想する力に個人差があることも分かった。

3) 指導観

そこで本題材では、「額縁」をファインダーとし、身近な風景を切り取ってその中に想像の生き物や出来事を入れるなど各自の想像力を思いっきり表現させたいと考えた。デジタルカメラでの撮影を、自分の思いがしっかりと表現できるまで繰り返し行うことで、色々な構成を工夫させ、自分の活動に自信を持たせたい。額縁で切り取った風景に各自が積極的に働きかけ、自分がつくったものや自分自身の姿を組み合わせ新しい風景に変える活動を楽しむ中で身近な風景を造形的・創造的に構成する資質や能力を育みたい。そして、一人一人の写實的、客観的な発想が作品に生きてくるためにどのような表現上のスキルが必要とされているのかを十分留意して支援していきたい。

また、PISA型読解力育成のために、どこの風景をどんな額縁でどう切り取るか、公共の自然に自分の想像をどう組み入れるか、遠近をどうするか、額縁との距離をどうするかなど色々なレイアウトを大いに考えさせ、思いついたことを自分の言葉でアイデアスケッチにメモし、完成予想図となるように支援していきたい。精神的にも身体的にも一層充実してくる時期なので、抵抗を乗り越えつくり出す喜びを十分味わえるような題材に取り組むことで、成就感、満足感を味わわせたい。

4) テーマに迫るための手立て

- ① アイデアの書き込みの積み重ねができるワークシート「完成予想図」を活用する。
- ② 自分のつくった「わく」と風景との組み合わせをデジタルカメラで撮影し確認する。
- ③ 発想の広がり役立つような未完成の作品例の提示、材料や素材と自由にふれ合うことができる時間と場を確保する。

(4) 指導と評価の計画 (8時間取り扱い 本時は第4時)

次	時	学習活動	評価規準	評価の観点			
				関	発	技	鑑
1	1～2	学校や身近な場所からこれからの活動のイメージを広げる。	活動に興味をもち、思いついた活動の内容、場所、材料などのアイデアを絵やことばでメモに表すことができる。 (完成予想図, 活動)	◎	○		
2	3～4	自分の選んだ風景との組み合わせを考えながそこを生かす額縁をつくる。	アイデアスケッチから、自分の思いを生かした風景にするための「額縁」をつくることことができる。 (完成予想図, 作品)	○	◎		
	5～6	額縁で切り取った風景を新しい風景に変える。	額縁で切り取った風景と組み合わせる物をつくったり、考えたりし、レイアウトを工夫することができる。 (学習カード, 作品)		○	◎	
	7	できた作品を風景と組み合わせせて写真に撮って残す。	景色との組み合わせのおもしろさを、写真に撮って残すことができる。 (写真, 活動)			◎	○
3	8	つくった作品の鑑賞会をする。	お互いの活動を紹介し合いながら、自分や友人の活動の楽しさやよさ、工夫したことなどを伝え合うことができる。 (鑑賞カード, 発表)	○			◎

(5) 本時の指導

◇ 目標

自分の選んだ風景を、自分の思いに合う風景に変えるための額縁をつくることことができる。

◇ PISA型読解力育成の手立て

計画的で、豊かな思い切った発想力が作品に生きてくるようにするために、「完成予想図」、
「学習計画表」の活用を工夫する。

◇ 準備・資料

〈児童〉 各自の必要な素材 完成予想図 はさみ ボンド ガムテープ カッター
軍手 学習カード
〈教師〉 段ボール 身辺材 アルミ針金 電動糸のこぎり ニッパー
ペンチ 金槌 のこぎり くぎ 参考例

◇ 展開

◎ 評価

学習内容・活動	指導・支援の手立てと配慮
<p>1 本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>景色を変える「わく」をつくろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時で考えた自分のユーモアが、生かせるような材料や道具がそろっているかも一度確認するように促す。 一人一人に自分の意図している全体像を再確認させ制作に対する意欲を高める。
<p>2 アイデアスケッチをもとに額縁をつくる。</p> <p>(1) 材料, 道具を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボール, アルミ缶, 木材, 綿, 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の扱う材料にあった道具を選択して扱うように呼びかける。 扱いに注意の必要な道具については教科書のP10を参考にしたり, 図で示したりして, 注意を呼びか

<p>針金など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッター、ペンチ、段ボールカッター、ノコギリ、ボンドなど 	<p>ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 自分の構想に必要な材料を確認し、準備することができたか。 (関；完成予想図 材料)</p> </div>
<p>(2) 土台に飾り付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻き付ける ・ひもで巻く ・ボンドで付ける ・色を付ける ・両面テープで付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・本題材のコンセプトである「ユーモア」「意外性」が表現されているかどうかチェックしながら制作を進めていくように助言する。 ・なかなか制作の進まない児童には、アイデアスケッチに描かれている児童の思いや意図を問いかけ、それに合った方法を具体的にアドバイスする。 ・グループで活動することで、互いの制作活動やユーモアを刺激とさせ、また新たな発想が浮かんだ時は随時取り入れていくよう声をかける。その際、アイデアスケッチにメモをしておくよう助言する。 ・特におもしろい活動をしている児童に自分の活動の工夫点を発表させることで、互いの活動や発想を刺激したり、教え合いができるようにしていく。 ・立体作品であることや用途の面から、作品を多方向からチェックしたり、立て掛けた状態にして破損しない丈夫さも考慮しながら制作を進めるよう助言する。
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 自己評価をする。</p> <p>(2) 次時の活動内容を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 自分の思いに合った風景にするための額縁をつくることができたか。 (発；作品)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の計画に沿って意欲的に制作を進めたことを賞賛し、成就感が持てるようにする。 ・学習カードに本時の学習について反省し、足りなかった点は、次時のめあてにするように話す。

3 成果と課題

(1) 成果

授業の初期にアイデアを描くことにした。その用紙を「完成予想図」とし、その時間だけでなく、継続してその時その時に思いついた事柄を書き込んだり、場合によっては修成していくようにした。各自の考えの積み重ねが残り、深めていくことができたと思う。

この題材は、「わく」と風景との組み合わせをデジタルカメラで撮影し確認できるようにしたので自分の作品を写真ですぐに確認でき、その場でレイアウトや背景などの変更ができ、自分の納得する作品を追求することができた。

高学年でも、材料とふれ合う時間や場をしっかりと確保し、イメージが固定しないような未完成の参考例を提示することで発想の広がりにも貢献できたと思う。

(2) 課題

- ・30人以上の児童が、校舎外で学習することになるので、安全面から見てみると心配な面もある。
- ・デジタルカメラの台数、プリンターなどが、余裕を持って使えるように7物的環境面を整えていきたい。
- ・授業時数が少ないので、児童の興味関心にマッチし、一題材で色々な観点を見られるような題材を開発していく。





